

SGH関高校の底力。

底力その1 なんといっても基礎学力。

2015年春の卒業生のうち、約5割が国公立大学に、約1割が難関私立大学に進学しました。関高校では、授業以外に、土曜講座や補習、大学別入試研究会、集中学習会、実力テスト、模試等、さまざまな受験対策を行っています。

関高校は、生徒に高い基礎学力を身につける場を保証します。その一方で、部活動はもちろん、強歩大会や学校祭、球技大会など学校行事も盛んです。勉強以外のさまざまな活動にチャレンジしながら、大学入試に向けた基礎学力の定着を目指します。

底力その2 アクティブラーニングで授業改革。

知識詰め込み型の授業から、生徒が主体的に考え、自ら表現する授業へ。高校の授業が、生徒を主体とした授業、アクティブラーニングへと変わりつつあります。関高校では、2020年入試に必要とされる「読み、聞き、書き、話す」4つの英語の技能を、アクティブラーニングでしっかり身につけることを目指します。アクティブラーニングは英語以外の授業でも、どんどん取り入れています。

底力その3 SGHでパワーアップ！ 課題解決型研究で主体性や思考力を身につける。

世の中で起きているさまざまな問題には、学校の試験問題のような正解はありません。どうしたら、正解のない問題を解決することができるのか。関高校では、自己の夢を実現しつつ社会に貢献できる若者を育てるために、SGH課題解決型研究を行います。

大学の先生や企業、同窓生、地域の方々等を講師に招くさくら塾や未来創造プロジェクト。大学や研究機関を訪問するリサーチツアー等、視野を広げ、学びを深めるための事業も盛んです。2014年度には、50名の外部講師が来校しています。東大や早稲田大、名古屋大等と連携した見学ツアーや実験講座も行っています。関高生には、研究やビジネスの最前線、国際社会や地域社会の現状についての最新情報を学ぶ機会がたくさんあります。本年度よりはじまる東大推薦入試、京大特色入試では、生徒一人ひとりの思考力や主体性が問われます。SGHは受験対策にも直結します。

自分の未来図を描こう！ 関高校で未来創造。

とにかく偏差値の高い大学へ。とりあえず有名大学に。そんな時代は終わろうとしています。何を学び、どんな仕事に就き、どのように自己実現したいのか。どうやって社会参加し、社会貢献するのか。遠い未来を見つめつつ、しっかりと歩みを進める。そんな若者にチャンスを与えるために、これからの入試では、受験生一人ひとりに対し、志望理由書、高校卒業までの経歴書の提出が求められるようになります。

関高校には、受験に向けた基礎学力対策、アクティブラーニング、部活動、生徒会活動、学校行事、SGHなどのプログラムが用意されています。関高校でしっかり学び、自分を磨き、自分自身の「学びの計画書」をじっくり書き込んでください。みなさんひとりひとりの未来創造を支援します。